



卵巣がん患者 情報収集に関する調査

2021年9月17日

アストラゼネカ株式会社

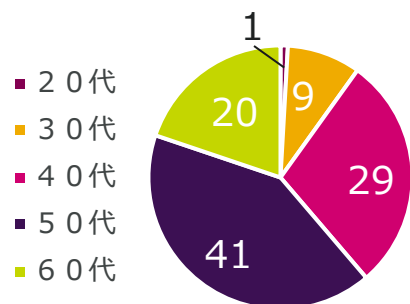
メディカル本部 オンコロジー部門

Women's Cancer領域

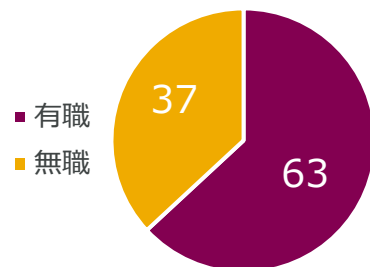
調査目的	卵巣がん患者さんの「卵巣がん」の認識把握と、情報収集の実態確認、卵巣がん患者の情報ニーズおよび、困りごとの把握。
調査手法	Webアンケート調査
対象者条件	〈卵巣がん患者〉：10年以内に「卵巣がん」と診断された20代以上の女性
調査地域	全国
サンプルサイズ	〈卵巣がん患者〉：111
実査日程	2021年8月27日～9月1日
調査機関	株式会社メディリード

n=111 unit %

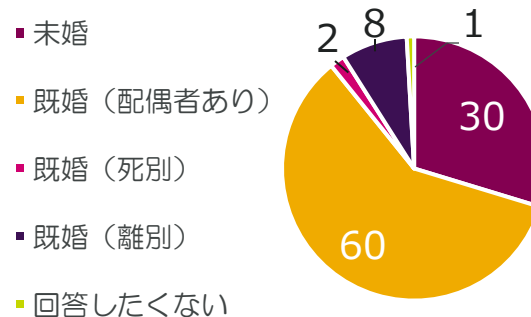
年齢（回答時）



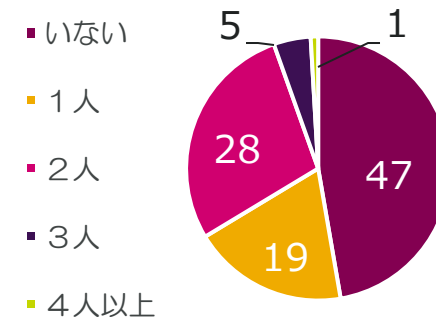
職業の有無（診断時）



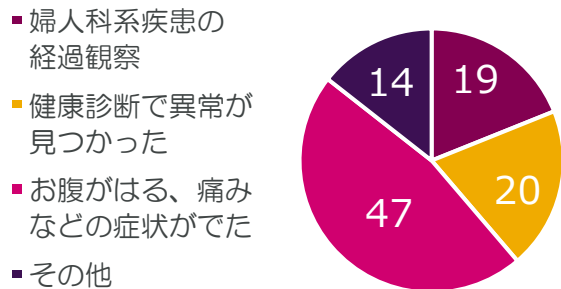
婚姻状況



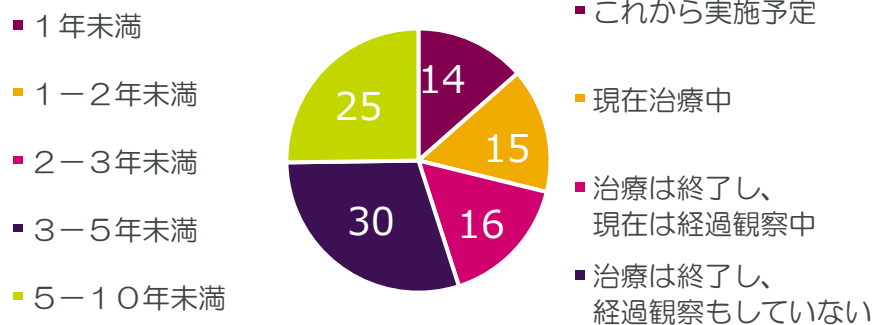
子供の数



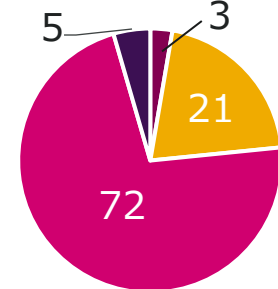
卵巣がん診断のきっかけ



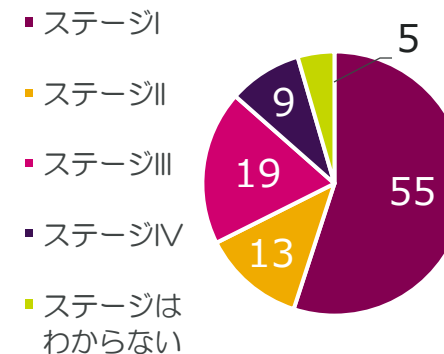
診断後経過年数



治療状況

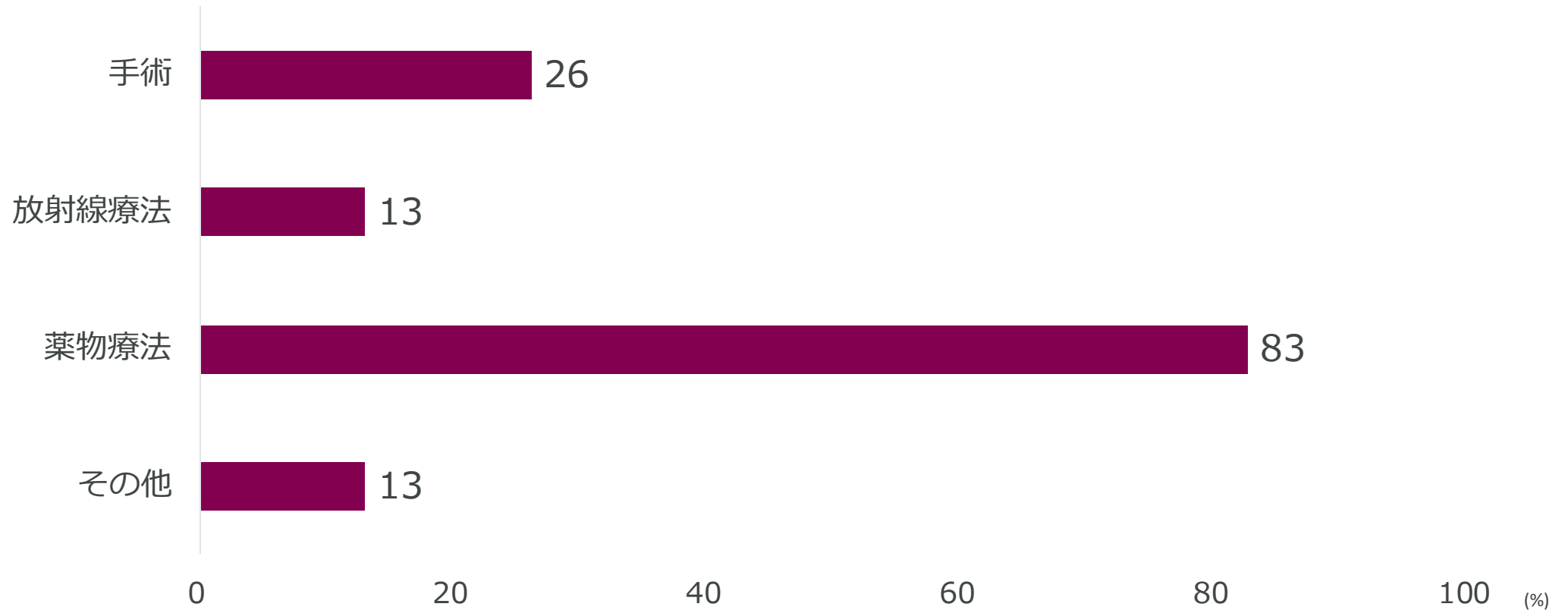


診断時病期



過去に実施したことがある治療

n=23

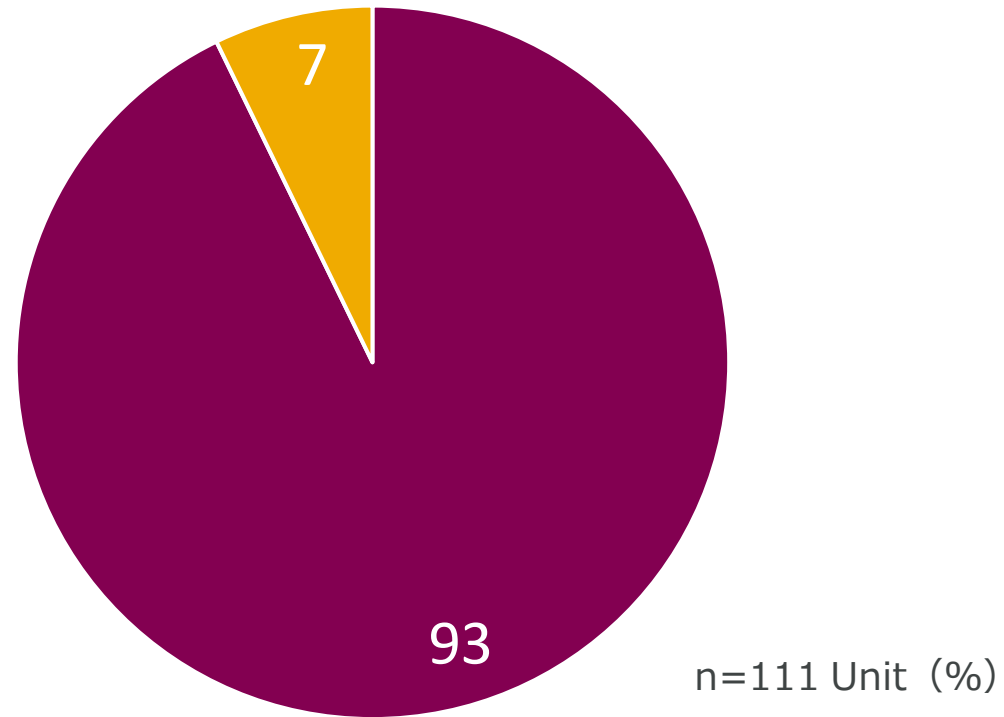


患者さんが情報を調べた割合

- 調査対象の患者さんの9割が、ご自身で卵巣がんに関する情報を収集されていた。

卵巣がんに関する情報を 自分で知らべた患者さんの割合

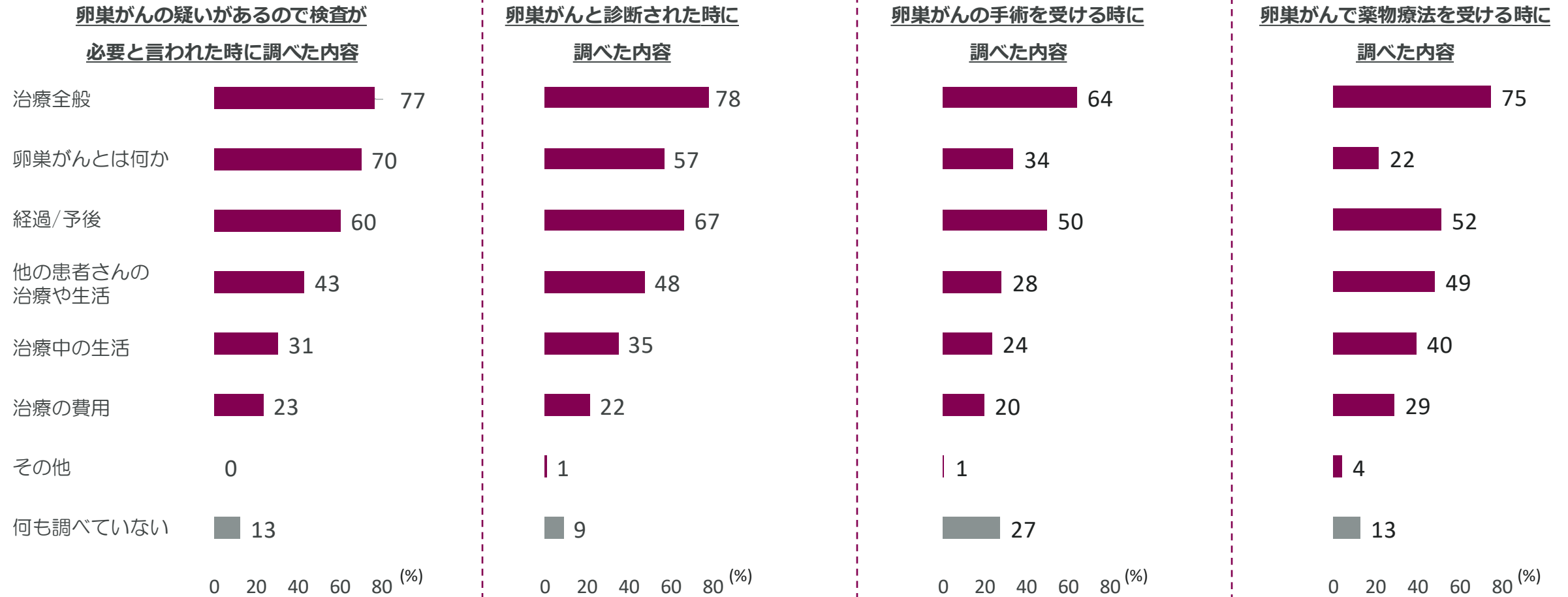
- 何らかの情報を調べた患者さん
- 何も調べなかった患者さん



患者さんが調べた情報項目

- 患者さんは、卵巣がん治療全般や経過/予後に関して情報収集されていた。

n=111 (複数回答可)



疾患に関する情報源

- 情報源として「医療情報関連サイト」、「病院のHP」、「患者ブログ」が多かった

卵巣がんの疑いがあるので検査が必要と

言われた時に調べた情報源 (n=78)

診断された時に

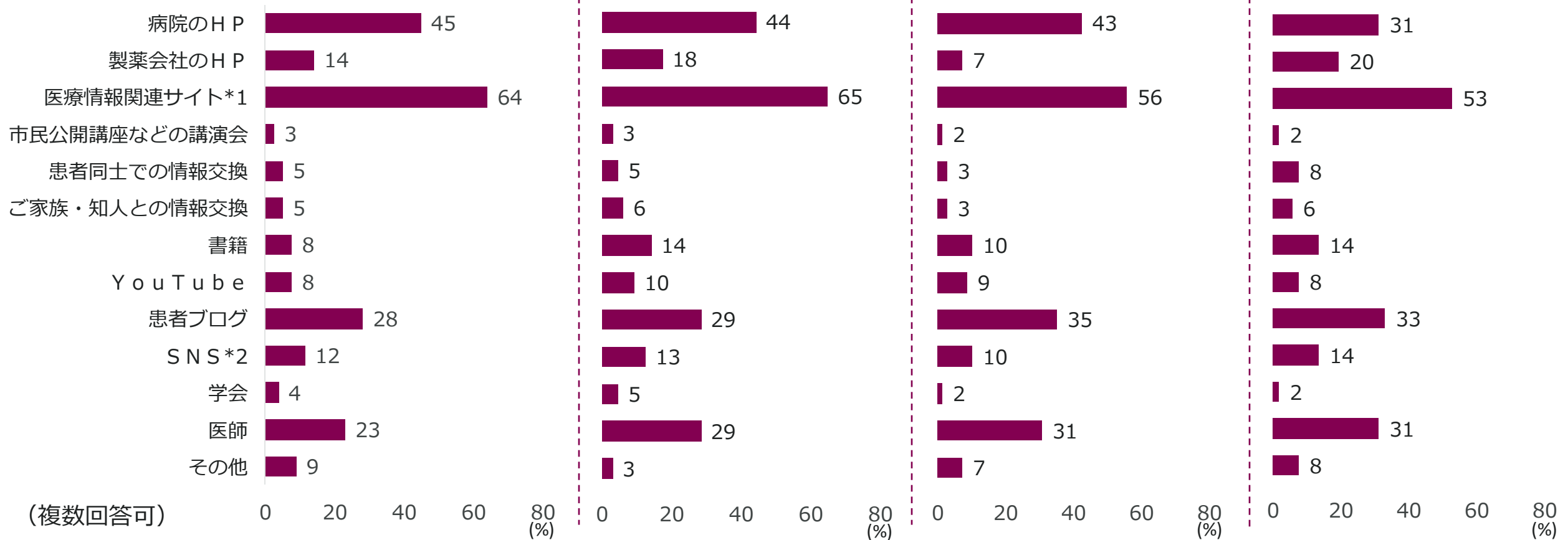
調べた情報源 (n=63)

手術を受ける時に

調べた情報源 (n=68)

薬物療法を受ける時に

調べた情報源 (n=51)



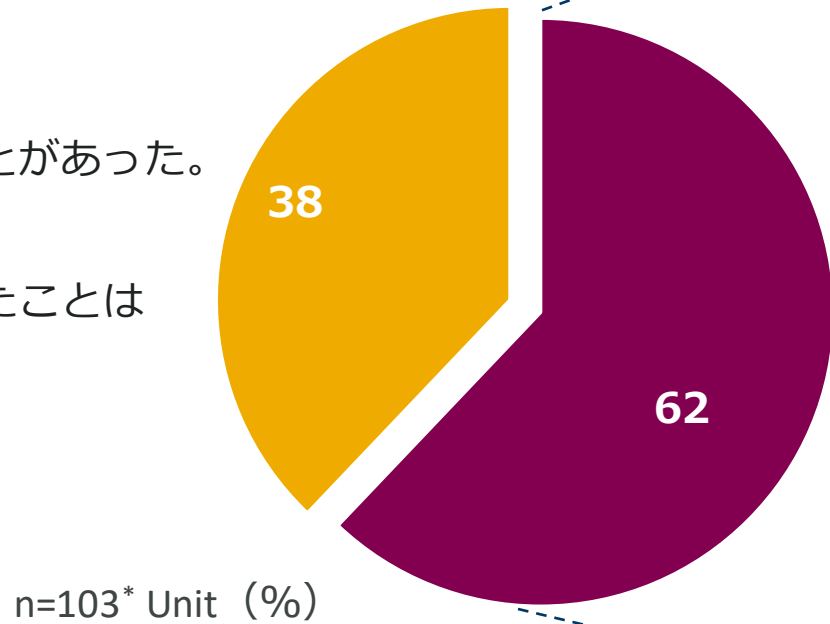
*1: オンコロ、がん情報サービス等、*2: Facebook, Instagram, LINE, Twitter

患者さんが情報収集時に困難と感じられた割合

- 約6割の患者さんが情報収集時に何らかの困りごとがあった
- 多かった困りごとは、「信頼できる情報がどれだかわからず、欲しい情報が見つからなかったこと」であった

情報収集時の困難

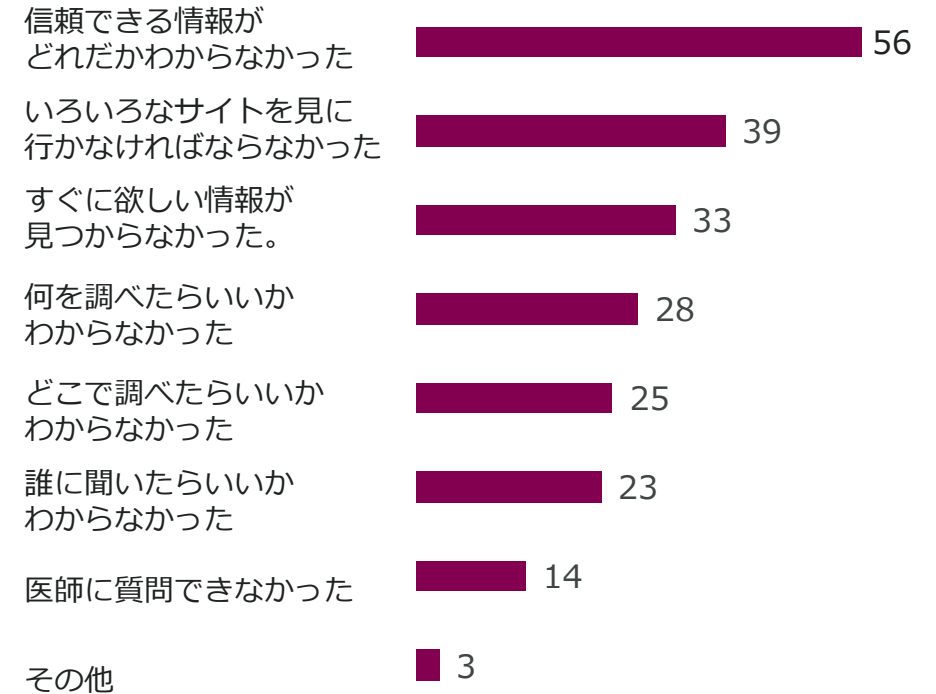
- 困ったことがあった。
- 特に困ったことはなかった。



*111名中8名は何も調べていないため上記質問は回答していない。

情報収集をする際に困ったこと (複数回答可)

n=64



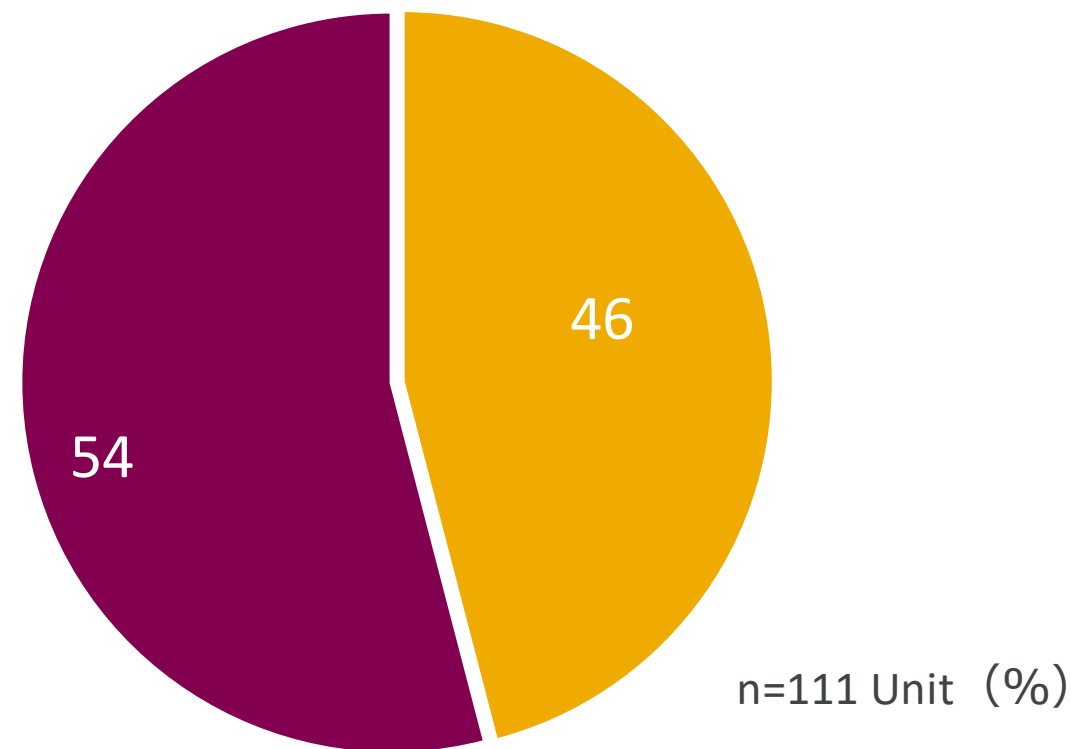
0 20 40 60 (%)

理解度と質問や相談のしやすさ

- 約半数の患者さんが、医師からの治療説明を診察時間の中で、質問できず疑問が解決できなかった。

治療説明についての理解と 医師への質問のしやすさ

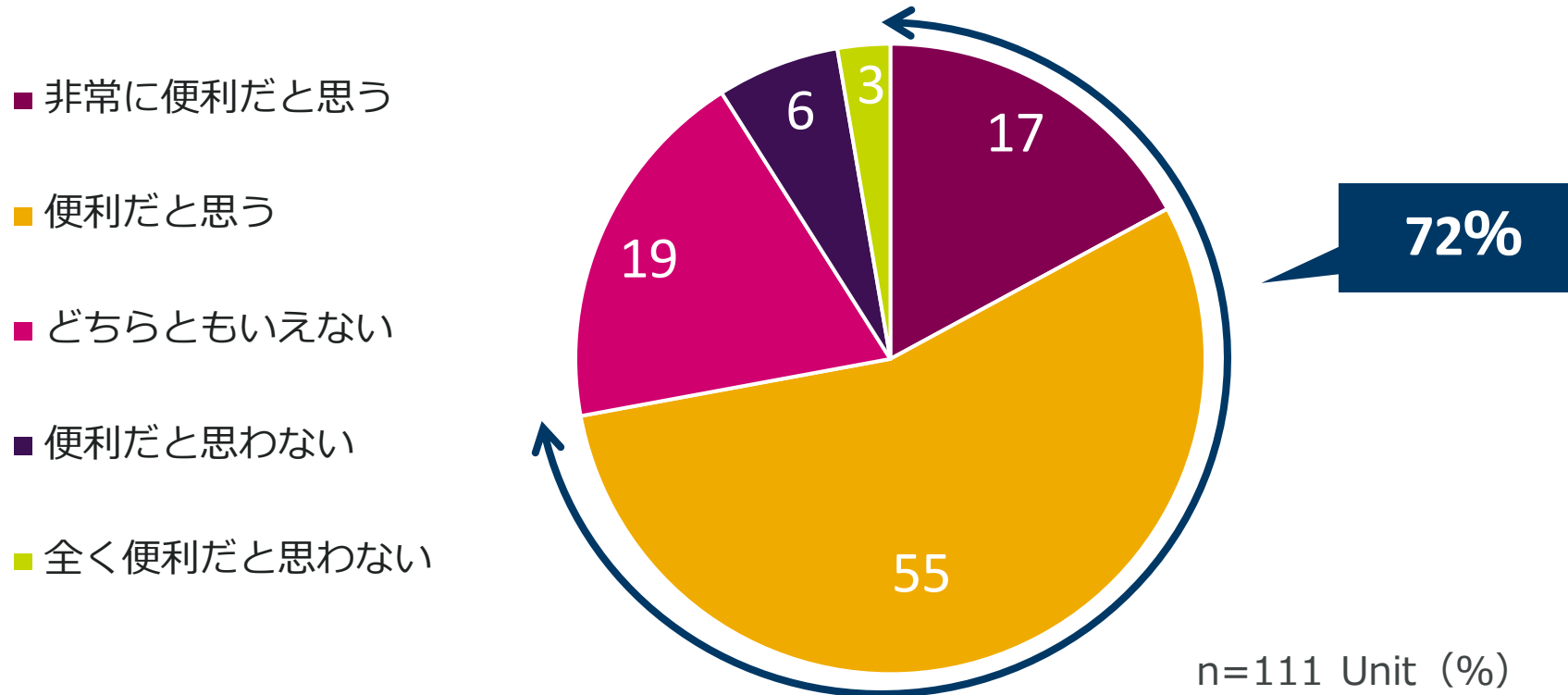
- 専門用語などもわかりやすく説明してくれたので、その場ですぐに理解でき、かつ担当医師に質問や相談できる雰囲気があるので、何の躊躇もなく質問や相談をしている
- 専門用語などが難しく、その場ですぐに理解できなかった。担当医師に質問や相談できる雰囲気はあるが、質問や相談をするのに躊躇している



一か所で収集できることへのニーズ

- 7割の患者さんが、情報が集約されている方が便利であると感じていた。

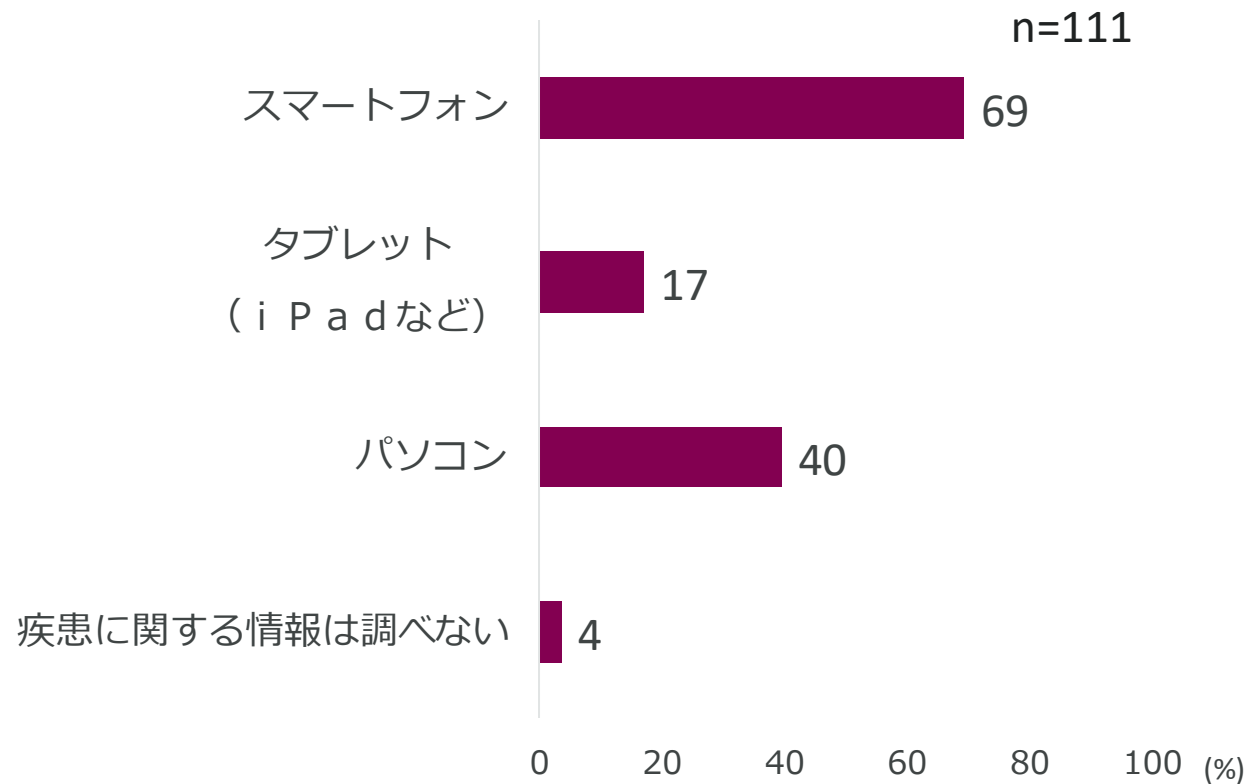
情報が集約されていることに対するニーズ



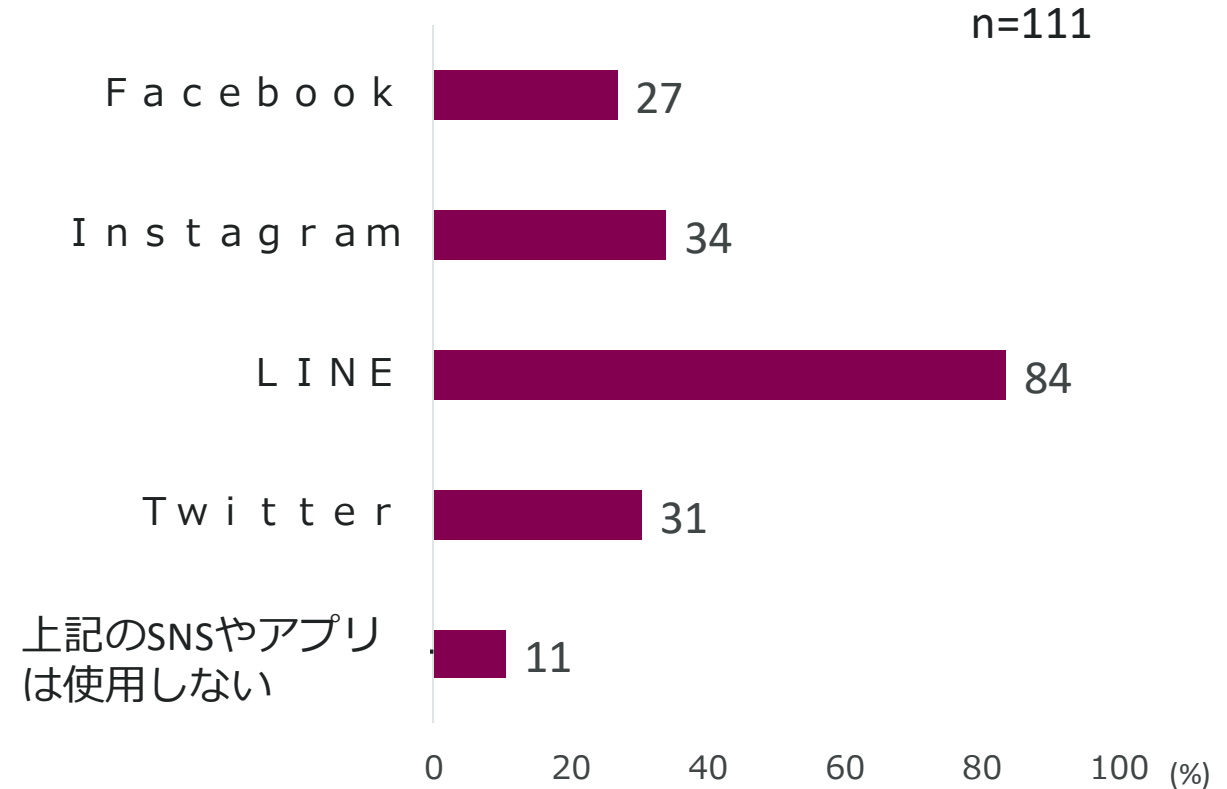
患者さんが使用される情報収集のデバイスとツール

- 疾患に関する情報収集は、スマートフォンが最も利用されていた
- 普段使用しているSNSツールは、LINEが最も多かった

疾患について情報収集するときのデバイス (複数回答可)



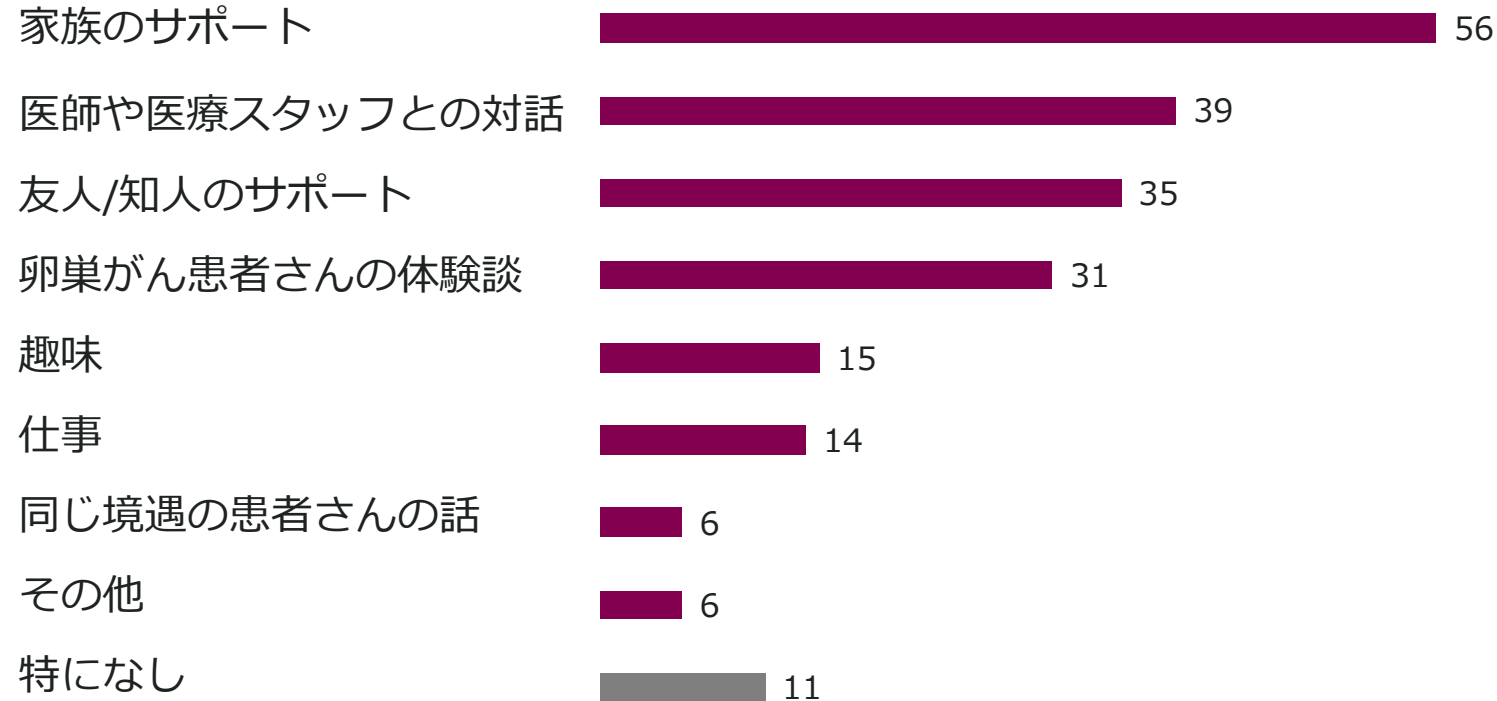
普段使用しているSNSツール (複数回答可)



- 治療意欲の向上に与える影響の要因は、高い順から「家族のサポート」「医師や医療スタッフとの対話」「友人/知人のサポート」であった。
- 約3割の患者さんが、「卵巣がん患者さんの体験談」を治療意欲向上の要因として挙げられていた。

治療意欲向上の要因

n=108* Unite (%) (複数回答可)



*「これから治療を実施予定」と回答された方は上記質問に回答していない

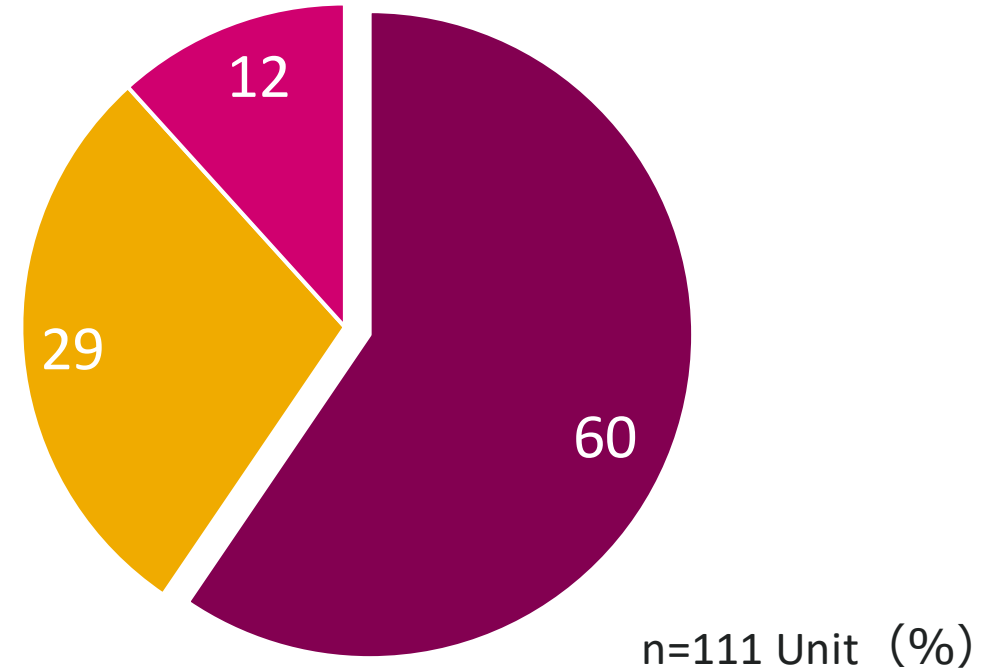
0 20 40 60 (%)

Appendix

- 6割の患者さんが、担当医師からの治療内容の説明を理解できた。

治療内容の説明に対する理解度

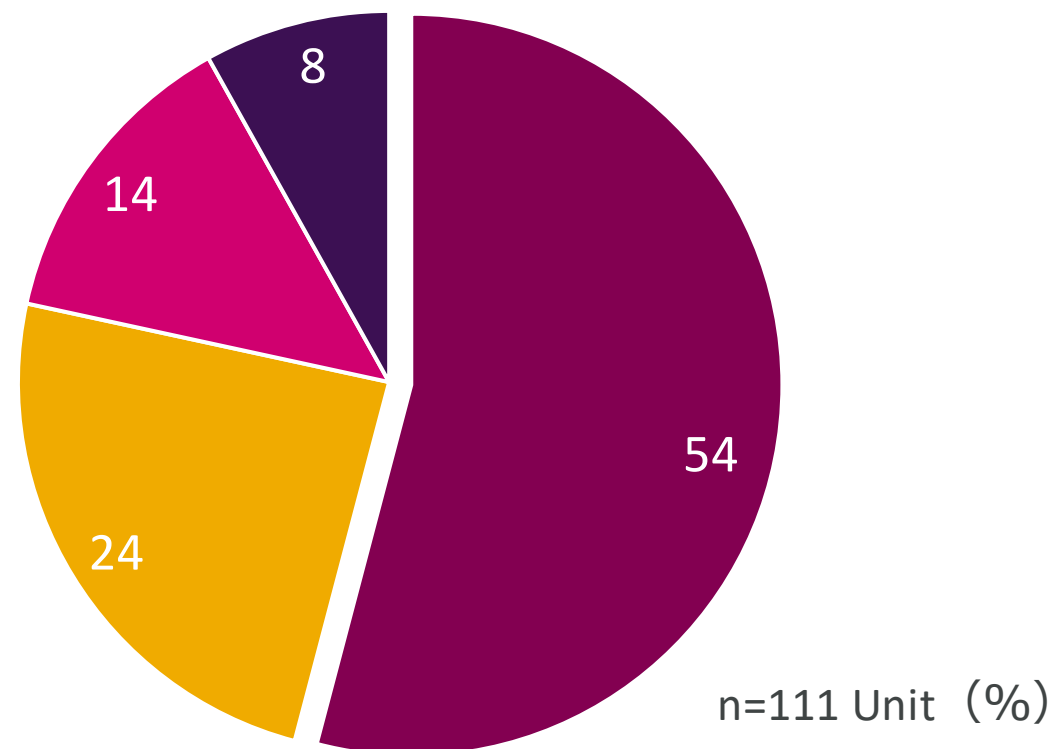
- 専門用語などもわかりやすく説明してくれたので、その場ですぐに理解できた
- 専門用語などもわかりやすく説明してくれたが、内容をその場ですぐに理解することはできなかった
- 専門用語が多くて、その場ではすぐに理解することはできなかった



- 約半数の患者さんが担当医師に対して、質問をためらう傾向がみられた。

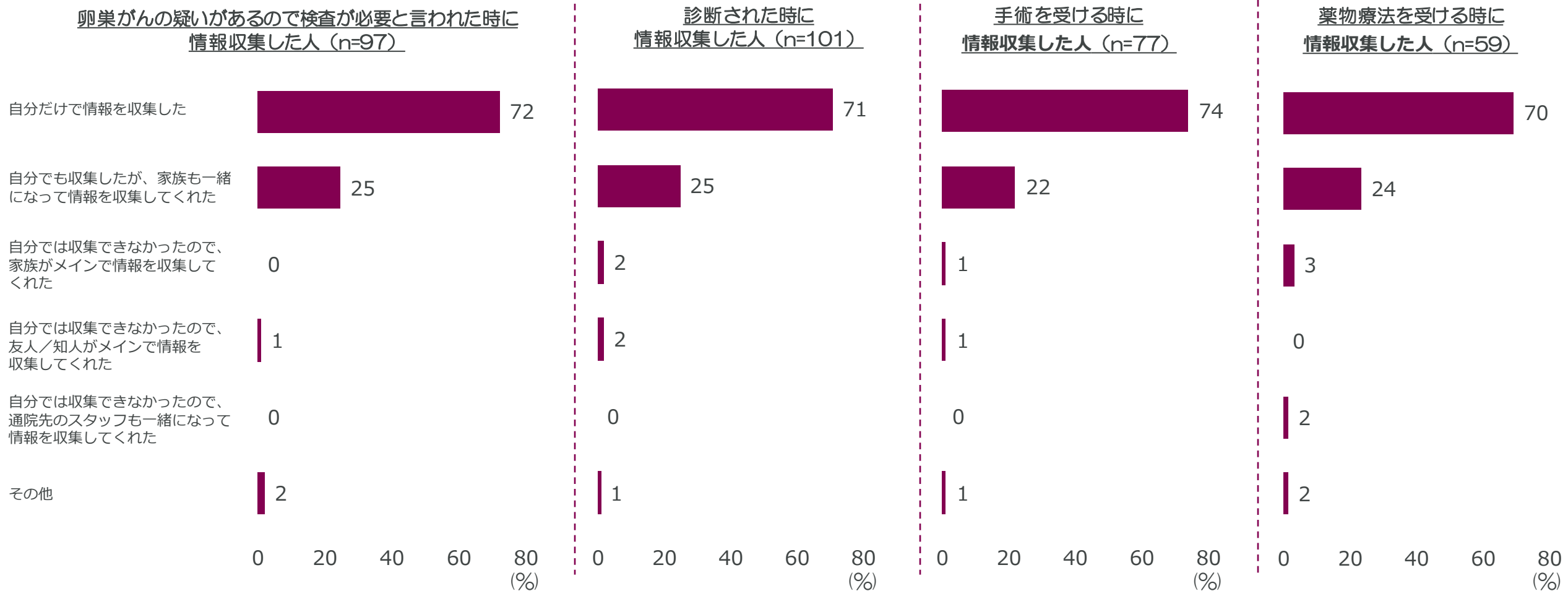
担当医師への質問や相談のしやすさ

- 担当医師に質問や相談できる雰囲気がある、
何の躊躇もなく質問や相談をしている
- 担当医師に質問や相談できる雰囲気はあるが、
診察時間の制約があるため、質問をするのを躊躇する
- 担当医師は質問や相談をしていいと言ってくれるが、
医師への質問や相談にはためらいはある
- 担当医師に気軽に質問や相談できるような雰囲気ではなく、
相談や質問しづらい



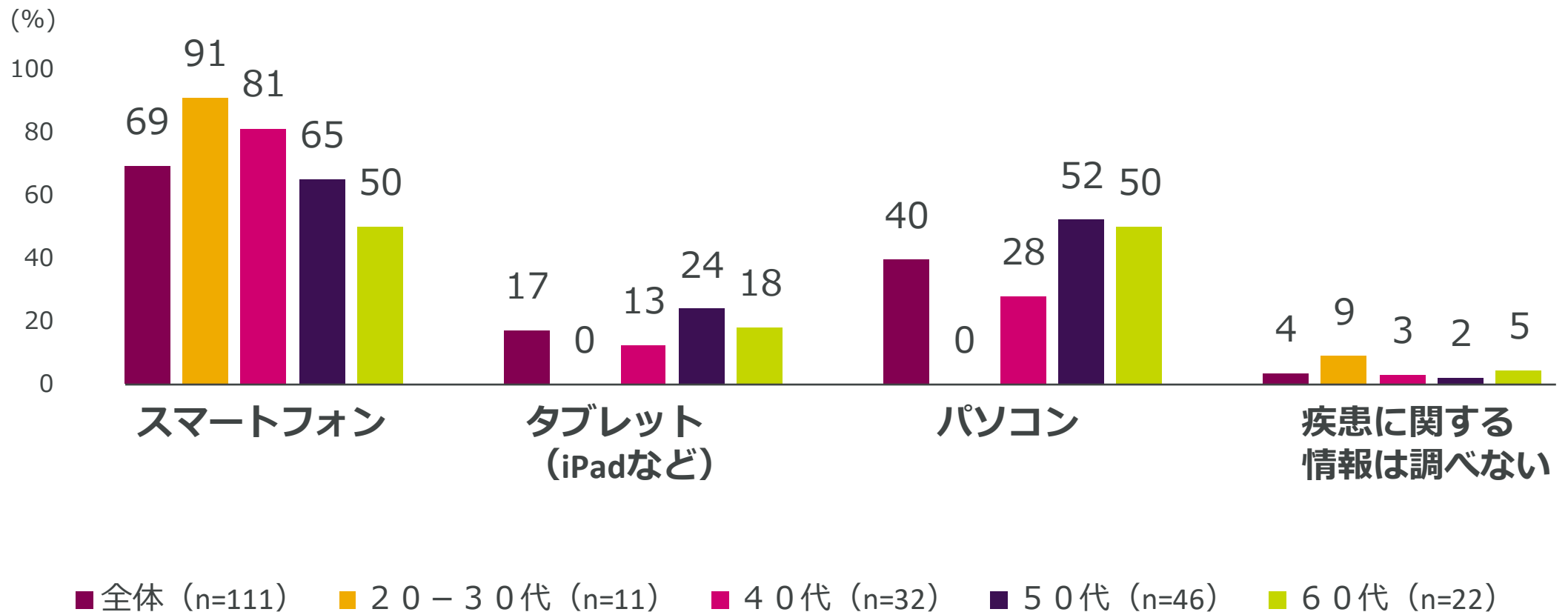
(誰が卵巣がん治療に関して情報情報を実施したか)

- 約7割の患者さんは、患者さんご自身のみで情報収集されていた。



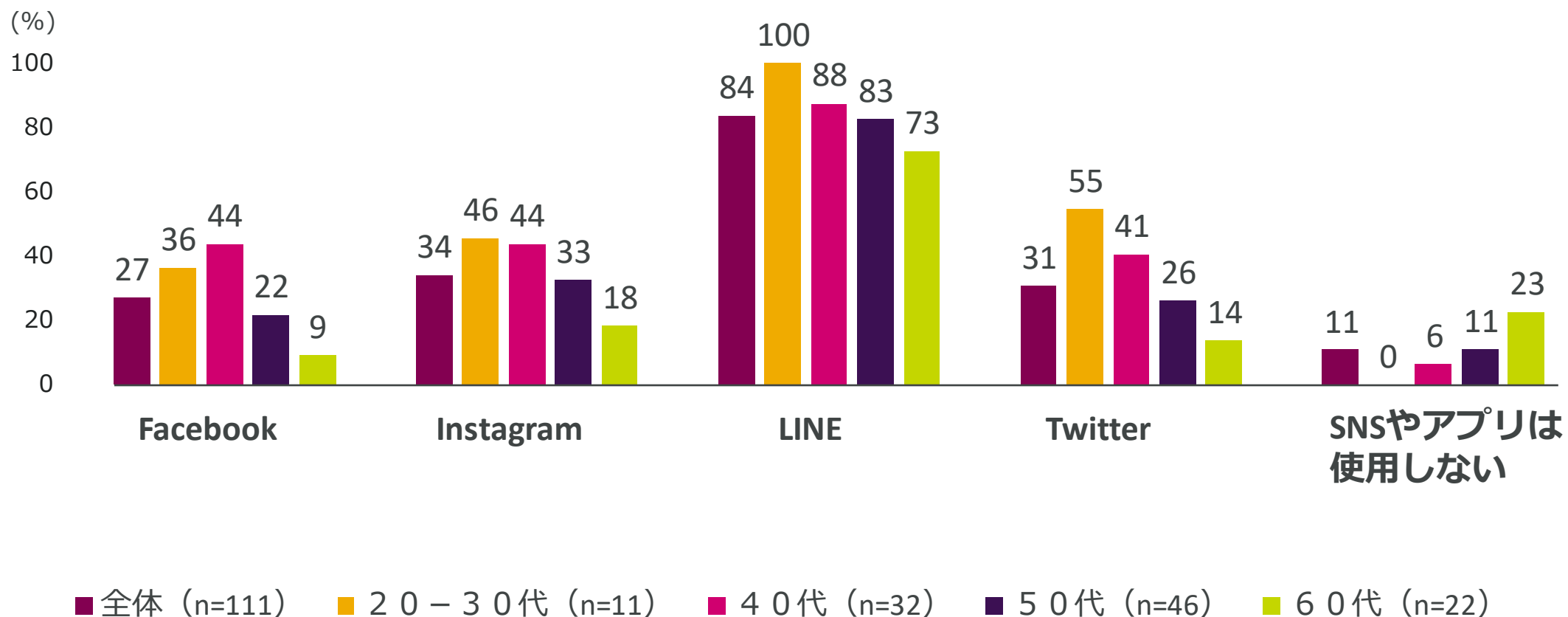
- 疾患の情報収集のデバイスとして、スマートフォンの利用が多かった。

情報収集の際に使用するデバイス



- 情報収集のツールとして、LINEを使用している患者さんが多かった。

情報収集のツール

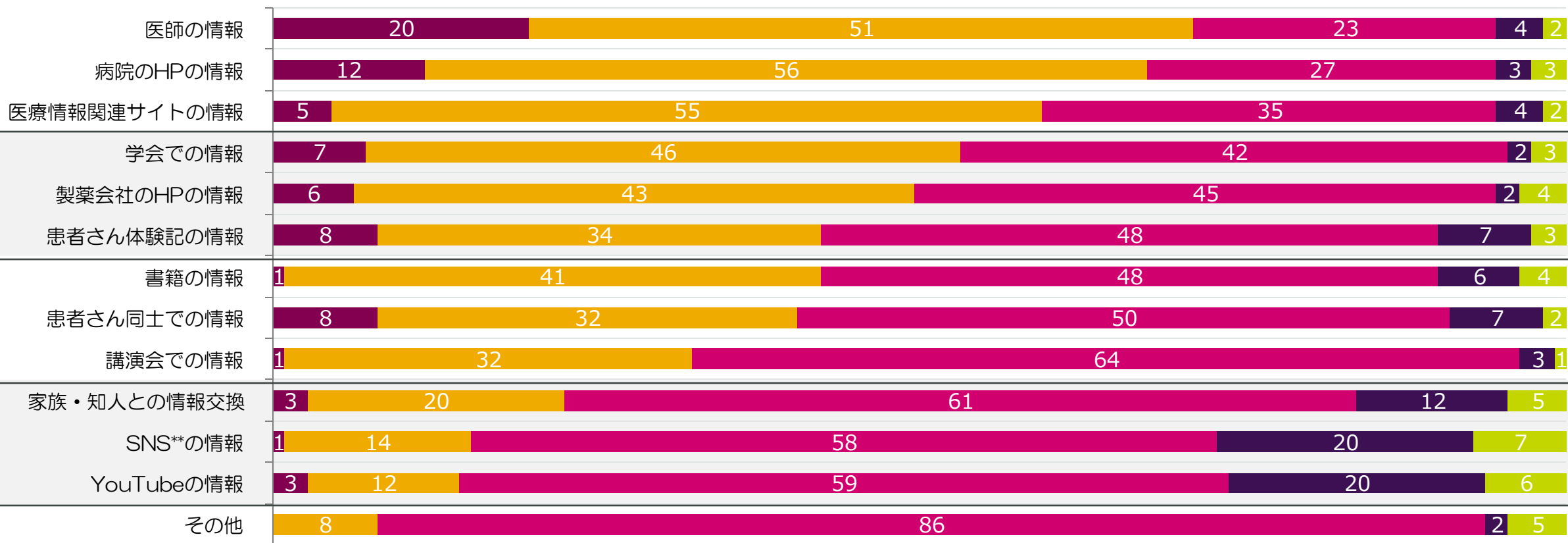


- 信頼性の高い*情報源は、順に「医師の情報」、「病院のHP」、「医療情報関連サイトの情報」であった。

情報源の信頼性

n=111 Unit(%)

■ 非常に信頼性は高いと思う ■ 信頼性は高いと思う ■ どちらともいえない ■ 信頼性は低いと思う ■ 全く信頼性は低いと思う

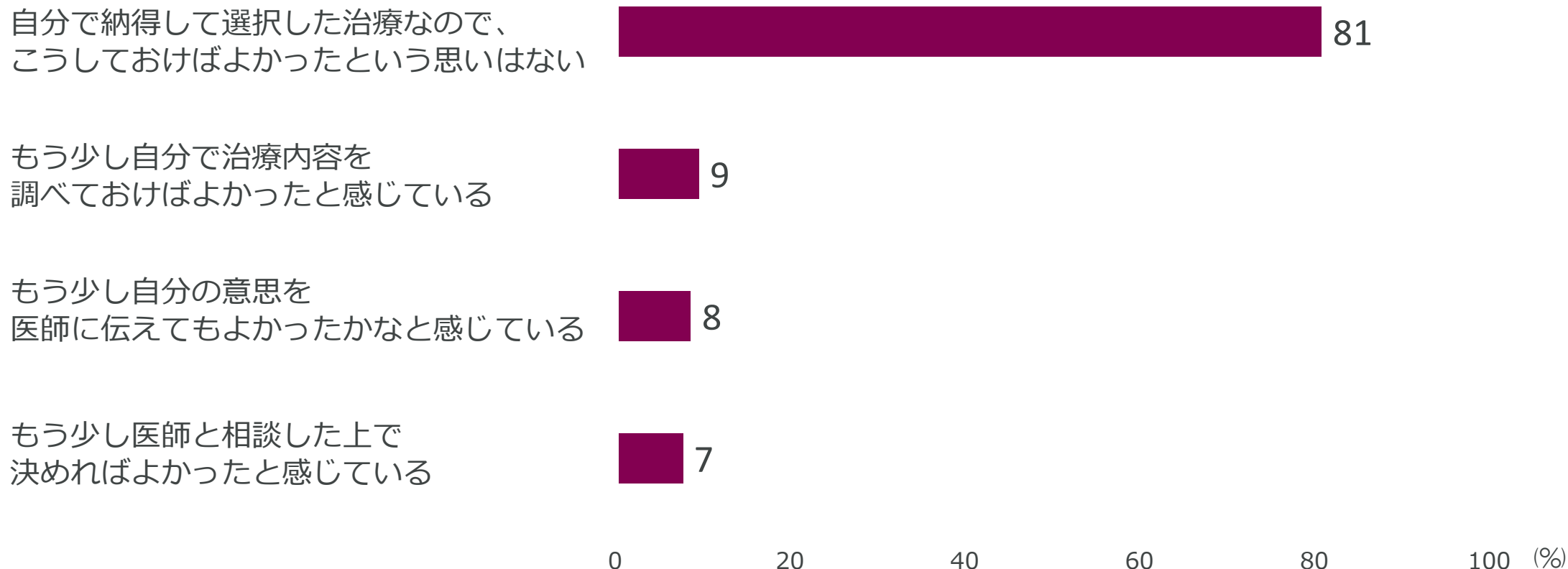


*非常に信頼性は高いと思う+信頼性は高いと思う

**SNS : Facebook, Instagram, Twitter

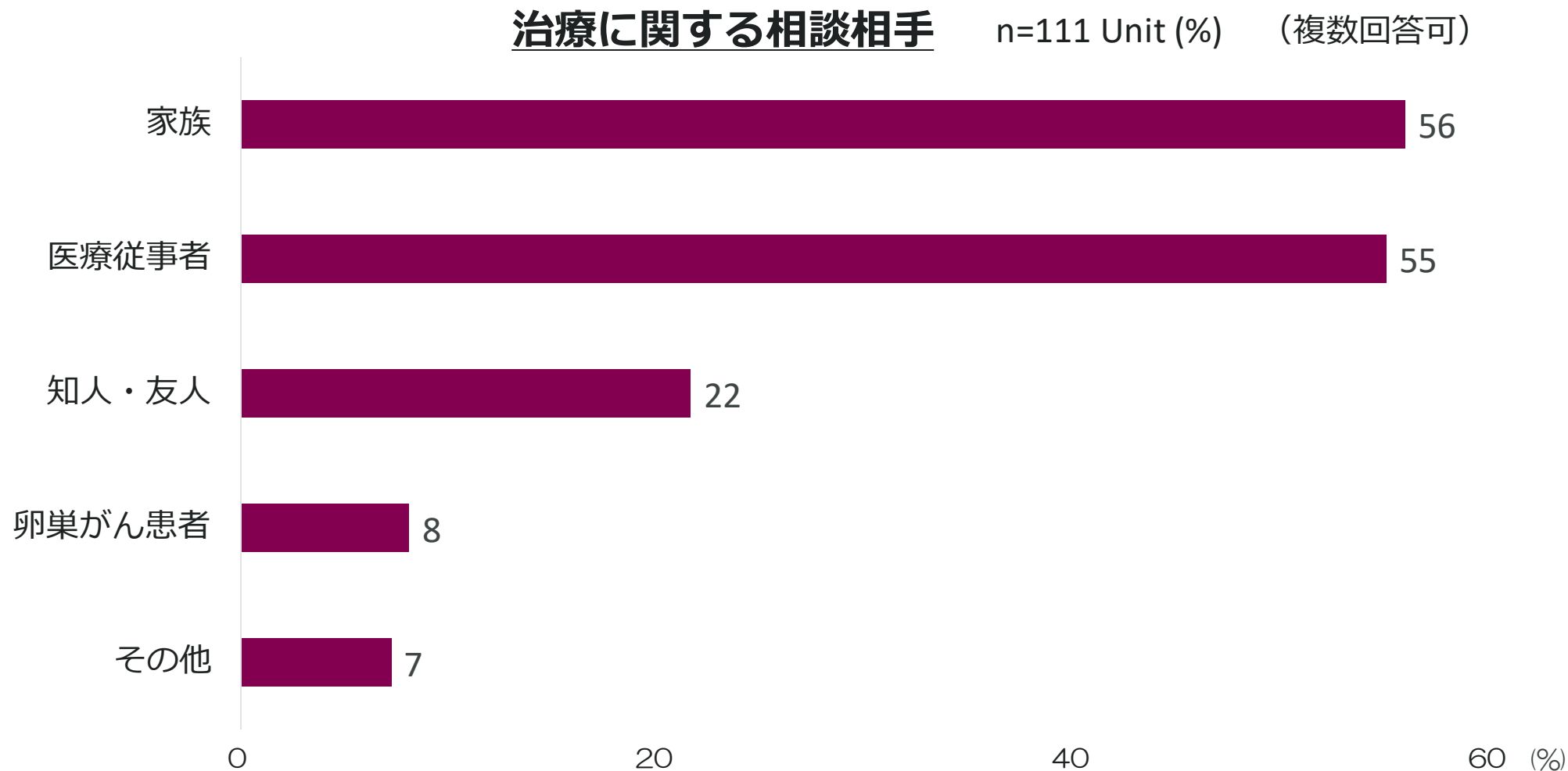
- 8割の患者さんがご自身の治療選択において後悔はなかったと感じられていた。

治療法の決定について n=108* Unit (%)



「これから治療を実施予定」と回答された方は上記質問に回答していない

- 治療に関する相談相手として多かったのは「家族」と「医療従事者」であった。



- 卵巣がんの理解度に対して、年齢による大きな差は見られなかった。

年齢別理解度

